

議 事 録

- 会議名 第5回佐賀県総合教育会議
- 開催日時 平成28年5月19日(木)13時30分～14時30分
- 開催場所 佐賀県庁新行政棟4階 特別会議室B
- 出席者 山口知事、古谷教育長、浦郷委員、牟田委員、小林委員、音成委員、加藤委員
(知事部局) 落合政策部長、藤原健康福祉部長、川久保男女参画・こども局長
(教育委員会事務局) 熊崎副教育長
(総合教育会議事務局) 木島政策総括監、西課長、他
- 議題 (1)学校給食安全安心緊急対策について
(2)「子育て」について

○議事録

1 開会

(木島政策総括監)

これより第5回佐賀県総合教育会議を開会させていただきます。まず出席者のご紹介でございますけれども、今回、教育委員会のうち、加藤委員に初めてご参加いただいております。また議題の関係者といたしまして、落合政策部長、藤原健康福祉部長、川久保男女参画・こども局長、熊崎副教育長が出席させていただきます。また会議の構成員でございます加藤委員におかれましては本年1月1日に就任されて以来初めてのご参加でございますので、一言、自己紹介をお願いいたします。

(加藤委員)

皆様こんにちは。1月1日から教育委員を務めさせていただきます加藤と申します。皆様どうぞよろしくをお願いいたします。

(木島政策総括監)

ありがとうございました。それでは続きまして山口知事からご挨拶をお願いいたします。

(山口知事)

今日は第5回総合教育会議ということでお集まりいただきありがとうございます。今年度もよろしくお願ひしたいと思ひます。知事は教育長、教育委員を選ぶところまではやっていますけれども、一同にこうやって会するという総合教育会議というものは以前はなかったんですが、今はこうやって定期的に会合を持って、特に教育委員の皆様様の様々な意見を政策に生かしていこうということで、非常に良い取組ではないかと思ひておひります。あまり高尚な話をしようということではなくて、ざっくばらんに日常、普段経験していることも含めて話す会議なので、是非よろしくお願ひしたいと思ひておひります。今日は教育庁・教育委員の皆様から提案された議題を扱うわけですが、特に、今日は記者会見もあったんですけど、私も学校給食への異物混入ということには心を痛めておひります。ずっとバラバラ起きてですね。これが学校現場ということで、自分たちからすると、本当に色んな子供たちが給食を楽しみにして、皆で給食何やろかってメニュー見ながら、楽しんで、食育の場でもあるし、子供にとって大切な場なのに、そんなところに異物、昔からたまに髪の毛が入ったりとかしてはいたけれど、プラスチックとか金属片とか有り得ないようなことが起きて、それを何となく見過ごしているわけではないんだろうけども、なぜこんなに続くんだろうかということで。これはもちろん教育委員会もそうですけれども、こちらもしっかりやっていこうということをお健康福祉部に強く言ってきたところなんです。給食を作っているということ自体が、単に食事を作って配っている感じではなく、とても高尚な、ある意味学校の先生と同じくらい素晴らしい、子供に夢を与えるような仕事をしているという思いを持とうという気持ちを、業者に強く伝えてくれと。もちろん、業者が原因かどうかはまだ実際分かっていません。ただ、県も責任を持って、皆様も含めて、皆で何とか原因を突き詰めて、佐賀県でこういったことが続くことのないように、徹底的に、強い決意でやっていこうということで。今回非常にタイムリーな議題ということでございます。それから「子育てし大県」についても、実体験が本当にできるような環境に佐賀県はあると私は思っているんで、特に体験プログラムとか、誰でも本に触れられる環境をつくるとか、地域の皆様も応援する、そういう骨太な子育てができる「子育てし大県」ということで取り組んでおひります。そうそう、久しぶりに女性局長、何十年ぶりか忘れちゃったねというくらいです。また、今度初めて男女参画・こども局というものを作りました。ほかの県は女性・こども局というのが多いんですけども、「女性と子供」とかではなくて、男女が、子供を含めて、皆で活躍していくんだということを含めて、川久保局長にがんばっていただくということで。新しい取組もこれからやっていきたいと思ひますので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたいと思ひます。

2 会議事項

(1) 学校給食安全安心緊急対策について

(木島政策総括監)

ありがとうございます。それでは本日の議事に入らせていただきます。本日は学校給食安全安心緊急対策について、そして子育てについてご議論をいただきたいと考えております。まず学校給食安全安心緊急対策についてですけれども、まずは先日三日連続で発生した、クッキングセンター佐賀に関連した学校給食への異物混入事案の内容とその対応について、藤原健康福祉部長にご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

(藤原健康福祉部長)

健康福祉部長の藤原でございます。よろしくお願いいたします。それでは私の方から説明させていただきますと思います。昨年の5月以降、本年5月中旬まで、県内では、認知しているものとしては27件の事案が発生しておりますが、そのうち10件がこのクッキングセンター佐賀が調理・提供した給食から出ているということでございます。そしてまた、先ほど知事からもありましたけれども、このたび三日連続で異物が発見されるという非常に異常な事態がございましたので、昨日業者を呼んで、要請文を渡したところです。それについては後ほどご説明したいと思います。この10件は、昨年の10月の三田川中学校から始まりまして、こちらではポリエチレン製の手袋、その後ゴミ袋片、その後はこれを食べたら健康被害といいますか、ボタン電池といった事案などもありました。またさらに、蛾の幼虫が入っていたり、その後も三日連続の中ではプラスチック片、ビニール、紐のようなものの事案が発生しております。ただこの10件のうち、センターで混入したということが分かっておりますのは、この上の二つですね。この二つに関しては特定されているというところでございます。一方、その後のボタン電池などに関しましては、どこで混入したかなかなか分からない、分かっていないという状況でございます。またさらに蛾の幼虫なども、調理段階、原材料の仕入れ、その辺りのどこかで入ったようだと。こういった事案ですね。その場合、やはり原因が特定できていなかったり、5月11日から三日連続で起こった事案については、現在調査中というところでございます。なかなか正直特定が難しいところもありますけれども、何とか見つけて根絶していかなければいけないと思っております。こういったこともありまして、県の保健福祉事務所において、これまで何度にもわたってクッキングセンターの方に立ち入りをしているところでございます。13回にわたって立ち入りをして参りました。そしてまた、その都度指導文書、具体的な指導

事項を出してきております。私も今日確認して参りましたがけれども、例えばハード面で言いますとX線検査装置、検査機の導入、これは石ですとかガラスですとかそういったものを発見できるというもので、仕入れたものについて全部の検査をしているわけではないようですけれども、そういったものについて検査したり、作ったもの、調理が終わったものについて金属探知機を導入しまして、鉄片とかそういったものがないかというところもチェックするなど、ハード面でのチェックはしているようでございました。また、備品の管理、例えばテープ、セロハンテープなど、透明ですのでやはり混入したときに分かりづらいので全て青い色の物に換えていたり、異物混入の原因として従業員の白衣・作業着も全てポケットのないものに換えていただいて、そういったところから入らないようにしてもらっています。また約10台の監視カメラも設置して、監視もしているところでございます。従業員に対する衛生教育も継続してやってもらっているということでございます。かなり対策は取っていただいておりますけれども、異物混入が続いているということ、また三日連続ということもありましたので、昨日業者に対して要請書を出したところです。ここでは、先ほど知事からもありましたけれども、とにかく学校給食を提供するというのは単に調理をさせて出しているんじゃないと、これは子供の未来、子供にとって重要な役割を担っているんだということを改めて強く申し述べて、とにかく共に学校の子供たちに安全安心の給食を提供していくことを第一に考えていきましょう、県、市、町、学校、民間事業者など、当事者で一緒にやっていきましょう、ということをお願いしたところです。また、学校給食の調理を請け負っているのはこのクッキングセンター佐賀だけではありません。他の業者にも同じ意識を持っていただきたいということから、食品衛生協会、県内の他の給食を提供している業者に対しても昨日要請書を出し、同様の趣旨の徹底をしたところでございます。また、本日午前中、私が先ほどまで現場の方に立ち入りをしまして、製造工程などを見ました。できるところを対応していただいている部分はありますけれども、やはり一つ感じたのは、最後は人の手というか、調理というのは全部機械ではもちろんございませんので、人の手を通じてやっているところもありました。そこで、やはり従業員の方に高い意識を持っていただくというのが重要だと思いますので、その辺りを是非対応していただきたいということもお願いして参りました。そういった中で、例えば現場の従業員の方が気付く機会もあると思いますので、例えば気付いたことをちゃんと上に上げていくような会社としての風土を作っていただきたい、気付いたところを、指摘したところを上に上げていける、そしてそれを皆で褒めるような、そういった仕組みを作っていただきたいということを含めて、施設を見学した後に意見交換も行ったところでございます。いま業者から5月末までに改善計画書を出して対応していただく、これについてもこの5月末に（計画書を）出して終わりではなくて、そ

れ以降も常にあらゆる可能性、何ができるかということ、考えながら対応していただきたいということも申し上げたところでございます。クッキングセンターへの対応については以上でございます。

(木島政策総括監)

はい。ありがとうございます。クッキングセンター佐賀に対する対応については以上のとおりでございます。またそのほか、いま部長からもございましたとおり、その他の業者の方々、また自校方式でやっているところもでございます。そういったところも含めまして、学校給食安全安心緊急対策につきまして、古谷教育長からご説明をお願い致します。

(古谷教育長)

私からは学校給食の安全安心緊急対策についてご説明したいと思います。この学校給食への異物混入の問題につきましては、本当にご心配をおかけしまして申し訳ございません。私どもも子供たちの大切な成長のための本当に重要な場面という認識をいたしております。そういった意味では藤原健康福祉部長からおっしゃっていただいたように、やはり関係者が一丸となって根絶に向けた強い決意を持つということが必要だと思いますし、このことに関しては、先般の三日連続の異物混入の前に市町とのGM21の会議でも知事の方からしっかりとこの件については扱っていただいて、そういったことも受けて緊急対策に取りかかったところでございました。その矢先の三日連続ということで、私どももこれは関係者がしっかりと気を入れて取り組まなければいけないと思いますし、さっき知事がおっしゃったようにこの仕事が本当に関係者にとってプライドと誇りを持ってやる、やれる仕事であるということを、しっかりと事業者の方に、従業員の教育をしていただくという形で、受け止めていただきたいと思っています。子供たちに安心して安全に食べられる学校給食を実現するために、県、市町、学校、民間事業者など、関係者が一丸となつての取組が必要と思ひ、対策に取り組み出したところでございます。そのために教育委員会といたしましては、食材の納入段階と調理段階を分けまして異物混入防止対策に特化した研修会を計画いたしております。まずは食材の納入段階でございますけれども、学校給食の食材を納入する全ての民間業者を対象とした研修会を計画いたしております。講師につきましても、保健福祉事務所の食品衛生担当の職員の方、それと、県と大塚製薬の連携協定に基づいて、同社のグループ企業でたくさんの企業に対して衛生管理指導を行っておられますアース環境サービス株式会社からも職員を派遣していただく予定にしております。研修会後には民間業者に対するチェックリストをお配りして、週末に提出していただいて取組

状況を確認していきたいと思っております。それから調理段階に向けてですけれども、こちらについても民間業者、市町、県立学校の全ての調理責任者を対象に、保健福祉事務所食品衛生担当の職員の方を講師としてお招きして研修会を開催いたします。研修後は各施設で伝達講習を行っていただいて、全ての従事者への周知を図ってきたいと思っております。子供たちが安心して安全に食べられる学校給食を実現するために、県、市町、学校、民間業者一体となった異物混入防止に取り組んでいきたいと思っております。私からは以上でございます。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。

(藤原健康福祉部長)

続いて、米飯とパンの納入業者、これが今県内で米飯が6施設、パンが5施設ございます。こちらに対してこの5月中に、既にやっているところ、またこれからのところもございませけれども、保健福祉事務所の方で立ち入り指導を行うことにしてございます。その中で、受け入れの段階とか製造の段階、納入の段階、その一連の作業工程を保健福祉事務所の職員が確認いたしまして、異物混入の可能性のある箇所について指摘をするということにしております。こちらでも継続的にやっていきたいと思っております。

(木島政策総括監)

ご説明ありがとうございました。この点につきまして何かご意見ございましたらお願いいたします。

(山口知事)

この状況について、直感的にどう感じですか。

(音成委員)

いや、もう有り得ないです。

(山口知事)

そうですね。有り得ないでしょう。

(音成委員)

有り得ないです、こんなことは。

(山口知事)

まだ原因は分かってないんです。どうしてこう続くかなという。

(加藤委員)

私ではないですけど、聞いた話ですね。こういうことが続いている、子供たちが本来給食の時間は楽しい時間で、やはり食べ物に対して本来楽しみな給食の在り方が、こういったことが起こってきて、子供たちが混入物を探すことに一生懸命になっているという、現場の声を聞きました。

(山口知事)

本当ですか？

(加藤委員)

東脊振の方だと、そういうことのようにです。

(山口知事)

GM21では、どちらかというとできるだけ給食を頑張って応援しよう、最近は中学校でも自分でお弁当という人もいるんだけど、できたら本当は給食っていいよね、と話が盛り上がっていただけに、これがちょっと残念で。弁護士さんの方がより詳しいんじゃないですか。

(牟田委員)

これは、意図的なものでなければいいですけど。

(山口知事)

それも有り得ますよね。否定はできない。

(牟田委員)

そうなる、威力業務妨害みたいな、警察の手をかけるのか、ということになるかもしれないですね。一つの業者で全部やっている。

(山口知事)

しかも偏っている。

(牟田委員)

そうですね。

(木島政策総括監)

この点につきましては、原因究明を含めて、知事部局、教育委員会共に根絶を目指して頑張っていきたいと思っております。

(山口知事)

それは僕が言うこと。(笑)

(木島政策総括監)

失礼いたしました。

(浦郷委員)

今あったようにですね、本当に、特に小さな子供たちは給食をととても楽しみにしているのが現実だと思うんですね。そういうことをきちんと知った上でその職務に当たるというのですか、さっき誇りのことを言われましたけど、そういうことがやはり必要ですよ。本当に食べることだけ楽しみ、くらいな子もおりますのでね。そんな中でこういうことになってしまうと、いろいろな意味でね、やはりこう発生してしまうとなると。

(山口知事)

教職員もそうですけど、その辺りの思いというか、自分がやっている仕事の意義というものを考えるかどうかですごく違いますよね。

(浦郷委員)

それは違うでしょうね。

(小林委員)

ちょっと気になったのが、センターなので、食べている子供の顔が見えないのかな、と。

(山口知事)

そう。それは何かやるんでしょう？

(藤原健康福祉部長)

そうですね。ちょっとやはり子供たちの交流の場を、ですね。

(山口知事)

交流の場？

(小林委員)

武雄は全部自校式なので、給食のおばちゃんたちとの触れ合いも普段あるんですよ。やっぱりいい匂いもしてくるし、すごく給食が楽しみ、おいしい給食が好き。お互い感謝の気持ちを持ち合って、本当に給食のおばちゃんたちも誇りを持って携わってくださって。そういう触れ合いがあると、また作る方たちも意欲的に作ることができるかな、と思いました。

(山口知事)

それはまったくそのとおりですね。

(藤原健康福祉部長)

会社にご子供たちから手紙が届くということは実際あるようなんですけど、それが果たして従業員の方、現場の方まで届いてるかというのがあると思います。現場レベルでの交流会の機会に関わっていききたいかなと思っています。

(山口知事)

これは、結果が出ますからね。これから皆でやっていって、根絶に向けてね。

(2) 「子育て」について

(木島政策総括監)

はい、ありがとうございます。学校給食安全安心緊急対策については以上としたいと思えます。次に子育てについての話題に入らせていただきたいと思います。これにつきましては教育委員会からご提案いただいておりますので、まずその提案理由のご説明をお願いいたします。

(浦郷委員)

今回子育てを意見交換のテーマに選びました。子育てというものを考えるときにどこに視点を当てるのかと。例えば親の立場だとか気持ち、あるいは子供の成長、あるいは子供を取り巻くいろいろな環境など。とても幅広い内容が含まれてはおりますが、要は、明るく元気に嬉々として伸びやかに活動する子供たちの姿、それこそが今後の、例えば県政の発展だとか、あるいは教育の将来にとって、何よりも大切なことです。そして当然のことながら親御さん方の一番の願いでもありますし、佐賀県民の願いでもあります。そうした中で、佐賀の人づくりを目指すというふうに常々言っておられる知事さんの、いわば肝入りと言いましょか、「子育てし大県” さが” プロジェクト」がいよいよ立ち上げられ、具体的な施策が進められるわけがあります。私たち教育委員会としましても、知事部局ときちんとした連携を図り、何よりも子供たちのために、ひいては子育てで本当に苦勞しておられる中で子供の成長を願っておられる親御さん方のためにも、それこそ言葉どおり「子育てし大県” さが” 」を実現するために、教育委員会としても力を注ぎたいと考えております。本日のこの意見交換を通して、そうした連携のヒントになるようなものが出てくるであろうと思っているわけですが、そういう意味で今回の子育てというちょっと広やかなテーマですが、提案をさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

(木島政策総括監)

はい、ありがとうございました。では提案理由で触れられました「子育てし大県” さが” プロジェクト」につきまして、川久保局長からご説明をお願いいたします。

(川久保男女参画・こども局長)

川久保でございます。「子育てし大県” さが” プロジェクト」についてご説明させていただきます。「子育てし大県” さが” プロジェクト」は結婚、出産などの希望がかなう環境を整え

ていく、佐賀で子育てがしたいと思っていただけるような佐賀県づくりをしたい、ということで昨年立ち上げたプロジェクトでございます。このプロジェクトは単に子育てだけではなく、出会いから結婚、そして子育てまで切れ目のない支援を行うというところに特徴がございまして、県庁内でも各課がいろいろな関連事業をやっております。そういったものを組織横断的に取り組んでいくということにしております。多々事業はございますけれども、その中で今年度特に新たに実施する、あるいは基本事業を拡充する、といった事業だけでも 34 事業ございます。その中から、本年度の特徴的なものをご紹介します。まず 4 ページに「骨太な子供を育て taiken プログラム」というものを挙げております。子供も、お父さんもお母さんも一緒になってワクワクドキドキする、ああ佐賀県でこんな体験ができるんだ、ということが特徴のプログラムでございます。大きくは四つ挙げておりますけれども、まず一つ目がコミュニケーション体験、二つ目が仕事体験、三つ目が自然体験、そして四つ目がスポーツ体験でございます。まずコミュニケーション体験は、佐賀の子供たちの五感を引き出そう、そして人と人とのつながり、コミュニケーションの大切さというものを感じとっていただくという事業でございます。ダイアログ・イン・ザ・ダークというのは皆様お聞きになったことがございますでしょうか。真っ暗な、光を遮断した空間にグループに入ってもらって、視覚障害者の方の案内やサポートを受けながら、暗闇でお互い助け合いながら手探りで声掛けなども楽しむという事業ですけれども、山口知事も実際にこれを体験されてすごく感動したということもありまして、日頃こういった体験というのはしないということで、子供たちも非常に心に残ったという感想を言っております。これは海外では非常に高く評価されている事業ですので、こういったものを佐賀の子供たちに一度は体験してもらいたいということで、これは NPO 法人がやっておりますけれども、こういった体験の場というものを佐賀県内にこれから広めていければと考えております。二番目に仕事体験でございます。「さがキッズわくわく (work work) ツアー」ということで、これは子供たちが佐賀ならではの専門の仕事を体験し、実社会で実際に稼ぐこと、通貨等の使用を通して、仕事の楽しさ、お金の大切さといったものを子供たちに知ってもらいたいと考えております。やはり仕事の中で佐賀の特徴を出したいということで、例えば焼き物やろくろ体験とか、有明海の手紙の体験とか、そういったちょっと特徴のある仕事を入れ込みたいと思っております。また、似た事業をされている商工関係の団体もあるようですので、そういったところとも連携ができたらと思っております。三番目に自然体験でございます。これは佐賀県の豊かな自然を大いに生かしていこうということで、小学校校区に一人くらいは自然体験活動を専門的に指導できる指導者を育成したいと思っております。初年度は 24 名ですけれども徐々に広げていきたいと思っております。また、最近は親にそういう自然

体験がないとなかなか子供にこういった体験をさせようという気に親の方がならない、ということがありますので、自然体験活動指導者による出前講座を開催したり、まずはこういった方々がうまく誘導をしていただけるような仕組みをつくりたいということでございます。「週末はチャレンジャー事業」では、いろいろな地域の団体、NPOが、何らか子供が参加する自然体験活動をやっているかと思いますが、そういったものをうまく体系化しまして、佐賀では毎週どこかで何かこういう自然体験をやっているよと、じゃあ今度は来週どこに参加しようかと思えるような環境が作れたらと思っております。四つ目はスポーツ体験です。子供たちのスポーツというとやはりサッカーとか野球が人気ということで、いろいろな多種のスポーツを地域で経験するというのは機会が少のうございますので、地域にあります総合型地域スポーツクラブ、これは大体18の市町にありますけれども、こういったところへの補助ということで、子供たちのためのいろいろなスポーツを小さいうちに経験できる、そういうスポーツ教室とかそれは居場所にもなりますけれども、そういったものを開いていただき、それに対して補助をする事業でございます。こういったところで子供たちの今後の居場所が広まればと思っております。以上が骨太な子供を育て taiken プログラムでございます。もう一つ学校現場で取り組む事業といたしましては、5ページでございますけれども、放課後児童クラブの夏休みの臨時開設支援事業ということで、放課後児童クラブが必要とされる校区には100%整備はしておりますけれども、やはり夏休み期間中は利用者が増えますので、どうしてもスペースが不足してしまうということで、臨時にプラスアルファで開設したいという市町がございますので、そういったところへ補助を行うことで、夏休みも安心してお子さんたちが過ごすことができる環境を整えたいと思っております。こういった取組は是非教育委員会との連携で行っていかねばなりませんし、夏休みでなくてもまだまだ放課後児童クラブの待機児童は多くございます。学校の余裕教室がいろいろ利用できるように是非学校現場にはご協力いただけたらなと思っております。私からは以上でございます。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。では教育委員さんからご発言をいただければと思っておりますけれども、どなたかいかがでしょうか。

(音成委員)

私事で大変恐縮なんですけれども、娘がおりまして、その子たちは大学から東京ですので、今も東京ですけど、佐賀で住んでいるより当然東京の方が暮らしが長いんですが、長女の方が

結婚するまで独身のときは一度も言ったことがなかったのが、最近ですね、佐賀に帰ってくるって言うんですね。それは今2歳半と半年の子供がいるので小学校からは絶対佐賀で、都会じゃなく佐賀で育てたいと。それはどうしてと言ったら、やっぱりまずご飯と言うんですね。佐賀にはこんなに安心安全で新鮮でおいしい野菜がいっぱいあると。都会でそういうものを買うとなると大変で、たまに帰郷してきたら本当に野菜がおいしくてしょうがない、お米がおいしい、海苔がおいしい、やっぱり子供を育てるには一番食というのがまず大事だと。それと、今、都会の公立の小学校、中学校は凄く荒れているって言うんですね。親は皆私立に行かされたがって、もうそうなったら私立に行かなかった公立の子供は子供も親も落ち込む気持ちになって、私立は私立で何となくそういうふうな人たちがまとまってしまって。本人が一番良かったというのは、小さいときに勸興、成章という学校で育て、そこの中にはクラスにはいろいろな子たちがいる、親の収入が全く違う、あまり貧困の家庭っていうのはどうだったか分かりませんが、それから知的障害者の子もいる、そういう中でいろいろと助け合ったり、そこで何か小さい子供なりに社会性が身について、思いやりとか、あんなことをしてはいけないという比況の心を育まれたりとか、制約とかそういうものがずっと育てられてきたので、高校は別として、小学校、中学校は絶対もう自分は佐賀で育てたいと。旦那の仕事まで辞めさせて帰ってくるらしいです。そういういろいろなことで佐賀で絶対に育てたいと言っております。そういう事を先ほど言っていましたので、話をさせていただきました。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。他にいかがでございましょうか。この点についてでも、何についてでも。はい、小林委員よろしいですか。

(小林委員)

私、まさに子育て世代で、子供3人育てています。私も出身は県外なのでこっちに来て本当に子供3人持ったんですけど、最初は二人だったんですけど、やっぱり子育てしやすかったというのも、地域の結び付きもあったし、悩む事があってもちょっと聞けば相談に乗ってくれる先輩がいたりとか、お母さんたち同士でも良い関係だったり、地域のおじいちゃん、おばあちゃんがよく声を掛けてくれたりして、やっぱりもう一人欲しいと思って三人子供を持ったんですね。今回この「子育てし大県」さが”プロジェクト”をしてくださることで、もっと皆が目指してきてくれたらいいなと思っています。私は武雄の方でよりみちステーションという子供の居場所づくりをやっています。なぜこれを私がやっていたかと思うと、私も子育て

てしながらなんですけど、なんでも学校にばかり子育ての責任、いろいろな事をお願いする、箸の持ち方から、好き嫌いを直して下さいとか、そういうことまで親が学校に期待をし過ぎるとか、あと地域の方たちも声を掛けるとやっぱり不審者と思われたらいけないから声を掛けづらいつか、凄くギスギスしていて、皆でもっと、浦郷委員さんが最初言ったみたいに、元気で明るい子供たちを皆で育てたいよねという気持ちがどこかにありました。なので、私は保護者でもあり地域のおばちゃんの一人ということで、誰でも来てもいい居場所というのを2012年からやっていて、私の場合、公民館を使って週1回だけなんですけれども、放課後の居場所づくりをさせてもらっています。さっき児童クラブで空き教室とかと言われたんですけど、子供たちの声を聞いていると、ずーっと学校がきついという子もいますね。なので、選択肢として学校でもいいし、ちょっと地域に帰ってきたら公民館とか、そういうところでも放課後の居場所ができて、選択肢が増えて、子供が自分で選んで行けるというのはいいことかなと思っています。うちは子供の居場所ではあるんですけども、お母さんたちも結構お迎えに来たりするときに寄ってきてくださって、一応18時に閉めるんですけども、閉めた後もなかなかお母さんたちがさっと帰られなくて、ちょっとした悩みというか、ちょっとしたことをおしゃべりしてるんですよ。本当に些細なことだったりするんです。朝学校行きたくないとか言うんだよとか、宿題をちゃんとしないけどどうしたらいいとか、些細なことなだけで、それを、うちもこんなことがあったよとか、うちこんなふうにして子供に声掛けに行ったよという、もっとお母さん同士の話を持たざるなんですけれども、それで、ちょっとしたときに話ができるとか、誰かがこう気軽に相談に乗ってくれる人がいるというのは安心ができるねと言って、お母さん同士もあそこに行って、よりみちして行ってみようよと言ってきてくれています。それが一つのモデルかなとは思いますが、地域の自分、子供が歩いていけるエリアにそういう集まる場所があって、そこを子供を中心に私は始めたんですけども、それをすることでお父さんお母さんが寄ってきたり、あと、地域のおじいちゃんおばちゃんたちもたまに寄ってきて、いろいろ様子を見てくださってとか、声掛けをしてくださるので、子供を真ん中にして育てていこうということができたらいいなと思っています。お母さんたちの悩みとかも聞きながらしていけたらなと思っています。ちょっと長くなるんですけど、うまく勉強してっていうところで、子供は学校教育と社会教育と家庭教育とかあるんですけど、今、知事部局の方に家庭教育の部署があったり、社会教育の方が分かれてありますよね。そういうところをうまく連携しながら、個々の事業にもまなび課さんの事業があったりとかあるんですけど、そういうところでうまくお互い子供たちを真ん中にして、具体的にどんなふうにしていけばいいかは分か

らないんですけども、やっぱり学校教育だけが教育の場ではないよというところを連携していただけたらな、ということを考えています。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。この点について、川久保局長、何かありますでしょうか。

(川久保男女参画・こども局長)

まさに小林委員さんがやってらっしゃるようなそういう活動が本当に佐賀県内にたくさん広がっていけばいいなと思っていて、基本的に支援を受けないと作れないとか、そういった部分ではないんじゃないかと思うところがあります。少子高齢化社会ということで、高齢者の方でもちょっと手伝いたいという方はたくさんいらっしゃるんじゃないか、そういう高齢者にご活躍をいただかなければならない、そうしないとなかなか地域ぐるみの支援というのは続かないのかな、というところで、そういった潜在的な高齢者のパワーというものも生かしていければ、地域づくりに、家族支援になるんじゃないかと思いました。あと、家庭教育の部分が確かに教育委員会に残っている部分と知事部局に残っている部分とがあるんですけど、そういったところを、昨年ですが知事部局と教育委員会とで、家庭教育の意見交換もさせていただいたりしました。お互いに相手が何をやっているか、ではここは連携していけるんじゃないかということで、まずはお互いに意見交換をやっておりますので、そういった中で連携をしっかりやっていきたいと思っております。

(木島政策総括監)

はい、ありがとうございます。加藤委員、学校をされている立場から何かご意見等ございましたら。

(加藤委員)

ちょっと学校とは違うんですが、子育てしたい佐賀県ということについては、私は佐賀県はできているところがたくさんあるんじゃないかなと思っています。それはさっき音成委員さんもおっしゃったように、食べ物新鮮でおいしい、それが、全国に誇れるものがたくさんあるということとか、豊かな自然があるということでは、もうその大きな基盤はできているんじゃないかなと。もし私が子育てをしたい県ってどういう県なんだろうと、自分がその親になって置き換えてみたときに、佐賀県のこの自然、そして食べ物がおいしいというのは、もう一番最

初にくることじゃないかなと思います。そしてその中で、さっきおっしゃったように、やはり学校だけでは限りがあるので、今地域にあるNPOとか小林委員さんがやってらっしゃるよりみちステーションとか、大人がどこかの相談所というか、相談に行く、そこが結構ハードルが高いんですよね、親にしてみたら。なので、気軽にぼろっと悩みを言える場所が学校以外のところでたくさんできたらいいなというふうに思います。そうすると子育てがもっと楽になるし、佐賀県には基盤が、私はあると思っていますので、そこをこういうプロジェクトとかでもっと固めて、各自治体がらみで気軽に相談できるような場がもっと増えたらいいなと思います。うちの学校もお母さんたちの悩みというのが、聞くとそれが子供に通じてしまうんですよね。だからお母さんたちの悩みを解消することが、子供がより良く育っていくようなところにつながっているのです。子供だけというのではお母さんたちの悩みは解消できないし、お母さんだけでも駄目だし、本当に地域で何かがそうやってすぐにでもぼろっと言えるような環境が自治体ごとにできたらいいなというふうに思っています。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。浦郷委員さん、ございますでしょうか。お願いいたします。

(浦郷委員)

さっき教育委員会がありまして、その後ちょっと時間があって、いま委員さんから出たような話が出ました。その中で、子育てという場合に、例えばこの「子育てし大県」さが”プロジェクト」、先ほど、局長さんからご説明がありましたが、これをざっと見ると、子供たちに対してどういうふうな事柄を提供できるのかという視点がとても強いんですね。子供たちに自然体験をさせるとか、何かをさせようとか、そんな感じの進め方みたいなものが見えてきます。そのことはまずとても重要ですね。子供たちがとにかく明るく元気にとことを考えれば、それがなければまず駄目なんです、しかしあと一つ、子育てしたいという場合に誰が子育てをしていくのかというと、何と言っても親御さんですね。さっきもそういう話になりまして、子育てはとても大変なんだと。そのときに、例えば活発なお父さんお母さんの場合には自分から進んで自分の悩みを人に言って解決していくことができるかもしれませんが、孤立してしまうような状況が生まれたりします。そういうときにさっき小林委員のところに来られている方々の話を聞くと、そういう人たちの巻き込んで、親御さんの気持ちを色々な意味でカバーする、そういう働き方もされているんですね。県全体としてそういう視点を持って、育てる親御さん方に何をどうできるのか、特に孤立させない形をどこかでやっぱり作るべきですね、といった

話をしていました。それと、音成委員のお子さんの話を伺って思いましたが、佐賀に帰ってきたいという若い人がいるというのは、しかも旦那さんまで一緒に連れてくるっていうのは魅力的だなと思いながら聞きましたが、そのお子さんが言われるように、実は食の問題だけではなくて、いわゆる良い意味で田舎である佐賀には、良い物がたくさんあるわけですね。ところが佐賀にいる我々がつついそういうものを見過ごしている面があるんじゃないか。もっと佐賀県中の人々が佐賀の良さはこうなんだということを承知していくと、まず佐賀にいる人が「だから佐賀で子育てしようよ」となるだろうし、また県外の人たちも同じような思いで佐賀に来てくれるというところがあると。だから、例えば佐賀の良さを再発見みたいな形をとりながら、それをまず佐賀の人にきちんと「実はこうなんだよ」と言ってあげるような、そういう働きかけがあっているんじゃないか、という話もさっき実はしていました。子育てといっても本当に広い内容ですので難しいねと言いつつも、まずそういう親御さん方をカバーする、支援していくシステムと、佐賀そのもの、「子育てし大県」、そういうだけの良さをきちんと我々も認識をし直して取り組んでいく、そんなことが大切だったね、そう思いながら私も皆様とさっきお話ししていました。そして子供たちが頑張るためには褒めなければいけないねという話もしていました。やはり子供たちの良いところを見てきちんと褒めて育てていくということを佐賀県はやっていく。佐賀県の子供たちの育て方の一つの形みたいなもの、核になること、そういうものを作って佐賀県こぞってやっていけば、おのずと子供たちも元気になるだろうと。そんな話をしていたところでした。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。加藤委員と浦郷委員から母親の悩みを解消する、親が孤立しない、というようなお話がありましたけれども、この点について川久保局長、いかがでしょうか。

(川久保男女参画・こども局長)

子育てとその親育てといえますか、まなび課の方の事業で、まさにおっしゃるように親御さんたちを孤立させないよう、相談相手となったり日頃ご家庭を支援する支援員さんたち、NPOの方たち、子育てサークルの方たち、そういった方を養成するための講座をアバンセで開催しております。毎年結構な人数の受講があって、認定書も交付しております。それもただ単に座学ではなくて、実際に学校現場などに行ってもらったりとか、ご自分たちでそういった支援の企画・メニューなどを立てて実践したり、アバンセを使って子供や親を呼んでこのシステムを使ってもらったり、非常に実践的な内容の研修をしております。地域のそういった人材を

どんどん送り込んでいくのも県の役目だなというふうに思っておりまして、いわゆる人材育成という点から、もっと参加していただきたいと思います。また、佐賀は本当に良いところがたくさんあるので、それをもっと佐賀県の人にPRをしなければならない、これはまさに知事が今実践をしておられるところなので。この前、知事も1000人の女子学生と議論されましたけれども、特に若い女性にどういうふうに佐賀の魅力を佐賀に居るときにアピールしていくかが大切なポイントかなという話を、局内でもしておりました。あと、褒める教育というのは、佐賀県の育て方として、いいご提案だなと思ったところです。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。牟田委員さんいかがでしょうか。

(牟田委員)

僕も、おっしゃるように、知事が非常に佐賀のことをいつもマスコミで褒めてくださって有り難いと思っています。私も東京に10年ぐらいいて佐賀に帰ってきました、佐賀は何もないのではなくて、東京こそ何もなくして佐賀は何でもあるんだなと実感しております。だから子育ても子供に言うのではなくて、我々大人に知事がもっと訴えてくださって、大人を褒めた方がいいですよ。佐賀を褒めて、大人が佐賀を好きだと言えば、きっと子供に伝わっていくんじゃないかと。

(木島政策総括監)

ありがとうございます。はい、落合部長お願いします。

(落合政策部長)

今、何人もの委員の皆様のご発言があったように、佐賀にいろいろなものがあるんじゃないか、なのに佐賀に住んでいる我々自身がそこに気がついていないんじゃないか、そういう問題意識が私たちにもあります。山口知事が就任されて、「なんもなかとよく言われる、それを撲滅しよう、『なんもなか撲滅プロジェクト』に取り組もう」という提案があって、いろいろと庁内でも議論しました。やはり自分たちが誇りを持って初めて周りに言えるし、子供たちにもそれが伝わっていく。皆が改めて考えたらいろいろな良いものがあるんだけど、ややもすると、マスコミの情報、都会からの情報に流されて、そっちの方が大事というような錯覚に陥っている、そういった誤解だったり錯覚だったりというのをしっかり見つめ直して、自分たちの

いいものを再評価していこう、改めて見直していこうという動きを、今一生懸命やっているところですよ。

(木島政策総括監)

はい、ありがとうございます。他に教育委員さんの皆様からよろしいでしょうか。総括して何か知事からご発言があればお願いいたします。

(山口知事)

もともと「子育てし大県」というのは、子供目線ではないんですよ。親目線なんですよ。子育てしたいという思いだから。いろいろなところに行って、「知事さん、行政がこれをしたあれをしたってことではなくて、私たち自身が子育てして良かった、子育てつらいよ、でも子育てして良かったって思わせて」という話を何度も聞きました。では具体的に何かと言ったときに、やはりさっき言った、孤立、寂しい、ちょっと髪切りたい、でもこの子が居てとか、だから病時・病後児とか、そういうつらい思いが何度もやってくるということだから、そういうところに対して、ミッションとして、親が子育てして楽しいなって思うような環境を佐賀は作ってという話を私はしてきました。もう一つ、福岡で、保育園の人から「子供の声がうるさいから閉園した」という話を聞いて、これは佐賀県では有り得ないな、と。やっぱりどちらかと言うとどこに行っても保育園の近くに皆がいてむしろ助け合っていて、地域で支えようというのは本当に佐賀県はよくできているので、むしろ「子育てし大県」という、皆様おっしゃるとおり基盤というのはある程度はできている。一番何が足りないかと思ったときに、親の気持ち、先ほど1000人（の女子学生）の話が出ましたけれども、知事に言いたいことベスト10をやると、一番上には福岡みたいに何か作って欲しい、そういうのが一番ですね。いろいろ聞いてみると、都会的なものに対する気持ち、その部分への思いが強すぎるということですね。それは、親が「佐賀何も無いもんね」と言っているからではないか。満たされたい、誇りに思いたい、褒められたい、という中で、親からつまらないところ、何も無いと言われて、子供が嬉しいはずがないです。良かったなお前、佐賀もんに生まれてきてね、と。佐賀はおいしいものもあるし、本当に何でもあるよね、と。都会に行きたかったら福岡がすぐだしね、と。ちょっと言い方を変えるだけで、子供は「ああ凄い所に俺は住んでるんだ」という気持ちになるんじゃないか。「佐賀さいこう！」っていつも言いますよね。最高だし、明治時代にあんな事やってたとか、子供を満たしてあげる気持ちを持たせることが大事だなと思っています。都会にいる女性に、あなたたち都会を歩いていて楽しいの、これは街が主役でしょう、誰もあな

たのことが知らないよね、渋谷を歩いてても、と。佐賀は人が主役やね、と言った瞬間に、あつと気付くわけですよ。1000人（の女子学生）も、一回都会に行ってきたいいんだけど、佐賀のことを、自分が皆から地域から周りから親から大事にされて育った素晴らしい所だっと思って出て行くのか、もうつまらない、早く出ていきなさいと言われて出て行くのか、これはすごく違うので。そこは本当に佐賀って素晴らしいので。都会的な物以外は何でもありますよね。四季もそうだし、朝昼晩の寒暖の差もすごくはっきりしている、こういうところは都会にはないので。そういうことも含めて皆でこうやって組んで、特に今回は我々と教育委員会がタイアップしてしっかりやっていけば、徐々にでも確実に佐賀は変わっていくという確信を私は持っています。私は、よそで見てきたからこそ分かるこの佐賀の凄さを知っているの。あとは我々大人の一人一人の気持ち次第。どうでしょうか。見方次第です。例えば私がいた長崎には海があるんだけど、この海を限界線と思うのか、開かれていると見るのかによって、長崎の人の思いはがらりと変わる。どう見るかということ。佐賀は開かれているから。

（浦郷委員）

子育ての事も含めてですが、今知事が言われたように、見方、感じ方、そういうものがやっぱり非常に大切ですよ。同じことでも暗く見えたり明るく見えたりする、それは自分の心次第ですよ。そういう意味ではいわゆるプラス思考というのか、例えばそういった佐賀の子育てのキーワードとか核になるものみたいなのを、一つ、二つ、三つぐらい作って、ガーッとやる。ある事柄を見ると、子供にはやかましいことでも、こっちからみるとそうではなく見えたりしますよね。佐賀の子育てはとにかくプラス思考、例えばですよ、そういうキーワードみたいなものを持って、佐賀県の子育てでそういう言葉みたいなものをが一んと打ち出して。「教育」とか言わなくて。佐賀は何か他の県とは違うよということをどんどん言っていくというのは効果的な感じがしますね。

（山口知事）

大町町の小中一貫校で生徒と一緒に給食を食べたときに、一番皆に言われたのは、将来何になりたいという志というか気持ちを持ちたい、と言う人が多かったですね。志を持ってないのはつらいとか、何かといやな事ばかり考えると、つまらないですよ。だから、プラス思考ってすごく大事ですよ。に褒めるということもそうだし、考え方もプラス思考にしていくという。何の教育というキーワードではなくて、佐賀の教育は皆こうだよという納得できるもの

を、是非教育委員の皆様方で考えては。方向性としては凄くいいと思うので、やったらいいかなと思います。そうすれば、皆の気持ちが同じ方向に向きますし。

(浦郷委員)

明るく旗印になるような言葉があるとですね、はっきりそういう方に行くんじゃないかと。

(山口知事)

我々の「佐賀さいこう！」みたいな教育のキーワード、「教育」と言わないキーワードをね。どうですか、皆様は。

(木島政策総括監)

はい。プラス思考と言えば、私も子育て世代なんですけれども、イベントが少ないのではなくイベントがを見つけやすい、そのイベントやっていることが際立ちますので、見つけやすいというのは非常に有り難いなと思っています。見つけやすいので各地に行って子育てを楽しんでおります。

(山口知事)

佐賀県は本当に色んな所で色んな体験、イベントがあるよね。

(木島政策総括監)

はい。そう思います。

(木島政策総括監)

そろそろ予定していた時刻が近づいて参りました。最後に何かご発言ございましたら、いかがでしょうか。特によろしいようでしたら、ここまでとしたいと思います。次回のテーマ、日程につききましては、改めて事務局からご連絡させていただきたいと思います。これをもって第5回の総合教育会議を終了いたします。活発なご議論どうもありがとうございました。